



演劇部

春季全国高校演劇研究大会 in 大分市

東北地区代表で参加しました



初の全国大会に向け稽古に励む生徒たち
＝鶴岡市・鶴岡中央高

全国舞台に「社会問題」問う

鶴岡市の鶴岡アートフォーラムで18日午後7時から一般公開の壮行発表会を開く。演出担当の2年中村咲耶さん(17)は「初めての舞台で緊張すると思うが、全員で支え合いたい」と語った。

(相原健佑)

きょう壮行発表会

タイトル「明日は救世主」は、網文化の魅力を発信する同校の「シルクガールズ」を絡めた作品で、性的マイノリティ、ウクライナへの支援、校内のいじめが同時に重なり合う。高校生の演劇として「評価の分かれやすい」(木村教諭)という題目に挑戦した。新聞で同様の社会問題への理解を深めたといい、主人公の一人を演じる部長の2年豊田侑志さん(17)は「(難しいテーマを)やるからには細かいところまで追求したかった」と語る。

LGBT、戦争、いじめ 重ね合わせ

鶴岡中央高の演劇部が初の全国大会となる「春季全国高校演劇研究大会」(24・26日・大分市)に出場する。LGBT、戦争、いじめの社会問題をテーマにした作品で、今年1月の東北地区発表会で出場権をつかんだ。部員たちは「舞台を見て関心を持ってもらいたい」と意気込んでいる。

鶴岡中央高演劇部が初出場

